

第六次猪名川町総合計画(基本構想)(素案)に対する パブリックコメント及び町の考え方

意見募集期間:平成31年4月26日～令和元年5月26日

意見提出者数:3人

提出意見数:21件

■第六次猪名川町総合計画(基本構想)(素案)について提出された意見の概要と町の考え方

番号	意見提出者	区分	頁	章	大分類	中分類	小分類	該当箇所	意見の概要	意見に対する考え方(対応)
1	1	.	1	1	1	1	-		3 段落目「第五次総合計画の策定・・・深刻化しています。」と、4 段落目「また 2015 年(平成 27 年)9 月・・・期待されています。」を入れ替えるほうが理解しやすいと思います。	本章では第六次総合計画を策定するにあたっての現状の整理や、国等の動向を整理しており、町の現状、社会動向の流れで整理していることから、修正は不要と考えます。
2	1		1	1	1	1	-		PDCA についての説明をページ下部に(注)を入れて下さい。 「PLAN(計画)、DO(実施)、CHECK(評価)、ACTION(改善)の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法」	計画書では、分かりやすい表現に努めておりますが、専門的な用語を使うことがあります。その際には、同ページ若しくは、後述で用語説明を行うようにします。
3	1	.	2	1	1	2	-		5 行目「なお、第六次・・・策定にあたっては、 <u>まちづくりワークショップ</u> において、住民とともに 10 年後の・・・」の下線箇所を「住民とともにまちづくりワークショップをおこない」として下さい。	第六次総合計画の策定に際しては、住民意見を聞きながら、また計画策定から住民参画を目的としていることから、意見のとおり分かりやすい表現に改めます。

4	1	・	4	1	1	4	-	「4. 計画の推進・進行管理」「第六次総合計画の推進にあたっては、基本計画において設定する重点戦略を中心に、関連する・・・」について、P12において「地方総合戦略」として説明されている旨を入れて下さい。	第六次総合計画では、計画期間となる5年後の本町のありべき姿を描きながら、その実現に向けた施策を基本計画で整理します。施策に関しては、まちづくりとして実現しなければならないことは当然事業化していくものであり、基本計画ではより集中的に取り組まなければならないものを施策として整理します。 ここで考えている重点戦略は、こうした基本計画の施策をパッケージ化する考え方で整理しており、p.12で示す地方創生の考え方とは、違ったものとしております。ただし、重点戦略も総合戦略もいずれも、猪名川町の将来を考えるうえで着実に取り組むべき事業である意味では同義であるため、その表現については、基本計画で整理してまいります。
5	2		5	1	2	1	1)	「1)位置、地勢、気候など」で、大阪・神戸は比較的近いので、km単位で示してもかなりの差が生じると考えられます。「大阪市北区」や「神戸市中央区」や「中心部」などの表現を使用すべきではないでしょうか。	猪名川町の位置を示すうえで必要な情報と考え表記していましたが、ご意見のとおり特定の場所との位置関係を示すのは困難であり、また距離の表記は猪名川町の概要を示すうえで必要な情報ではないことから、今回は具体的な距離等での明示は行わないこととします。
6	1		5	1	2	1	2)	「2)歴史」の2段落目「江戸時代には、・・・<u>周囲の村々を銀山付村として支配しました。</u>」の下線部、猪名川町が現代まで連綿と続く豊かな歴史を表現するには違和感があります。	ご意見にある表現に関しては、次のとおり改めます。 「代官所が周囲の村々を銀山付村として管理しました。」
7	3		6	1	2	1	3)	グラフ【総人口と一世帯あたり人員（総世帯）の長期推移】内の欄外「※上記の世帯は、総人口を総世帯数で除したものです。」について、「※上記の一世帯あたり人員は、総人口を総世帯数で除したものです。」が正しいではないでしょうか。	ご意見のとおり改めます。

8	3		7	1	2	1	3)	中段「高齢化率は 2015 年（平成 27 年）で 26.3%と年々上昇していますが、全国・兵庫県に比べて低い値となっています。」としていますが、2015 年(平成 27 年)の値が、2010 年(平成 22 年)に比べて急激に高くなっていることから、今後の高齢化が急激に進むことが示唆されているとも考えられます。そのことを踏まえた表現にすべきと考えます。	次のとおり改めます。 「2015 年（平成 27 年）の本町の高齢化率は 26.3%となっており、全国、兵庫県平均と比較すれば、低い値となっていますが、高齢化率は加速的に進んでおり、今後同様の傾向が予想されています。」
9	1		11	1	2	2	-	最後の段落の「・・・達成に向けた取り組みの <u>促進</u> を促しています。」の“の促進”は不要だと思います。	ご意見のとおりに改めます。
10	2		13	1	2	2	-	「アベノミクス」や「バブル」については、その定義等を明らかにして使用した方がよいです。	ご意見に関しては、既に一般的に使われている言葉であることから、改めての定義は必要ないと考えます。 分かりにくい表現や、専門用語については、用語集等での対応を検討します。
11	1		14	1	2	2	-	「地域コミュニティの変容」の最後の部分で「社会参加が <u>必要不可欠</u> です。」の下線部を「のぞまれます」と柔らかい表現の方が次ページを受け入れやすく感じると思います。	参画と協働のまちづくりにおいては、住民参加、住民自治の考え方が重要となります。一方で地域コミュニティは、これまでの地縁性に基づくコミュニティのあり方から、その様相も変化しています。ご意見のとおりに改めます。

12	1		17	1	2	2	-	高度情報化社会の進展、以下 6 行目「ICT（情報通信技術）」下線部は現在一般的には「伝達」となっているようです。 また「IoT（モノのインターネット）」下線部を、「モノがインターネットにつながる仕組み、技術」と説明されては如何ですか。 またこの個所の後ろ「ICT の普及により、ビックデータ・・・効率化・活性化につながっています。」の「ヒ」を「ビ」に。最後の「につながって」を「が進められて」のほうが現状を表していると思います。	ICTに関しては、誤った表記ではなく、誤解を招くこともないと考えており、原文のとおりとします。 また、IoTに関しても同様です。 次に表現に関してですが、該当箇所を次のとおり改めます。 「ICTの普及により、ビックデータやAI（人工知能）の利活用が進み、地域課題の解決や産業の効率化・活性化が進められています。」 なお、ICT等の用語に関しては、用語集で補足的に説明することとします。
13	1		17	1	2	2	-	P.17 で述べられている将来を目指す日本社会の未来像に関連して、猪名川町の計画では全く触れられていないことに不安を感じます。働き方改革にも関わってくるテーマだと思います。例えば空き店舗や空き家を利用した「シェアオフィス（共有事務所）」「コ・ワーキングスペース」などの利用者開拓、家賃補助など若い世代の働く場所を広げることにバックアップする施策を検討してください。	本章では社会情勢として整理しております。ここで記述している高度情報化の進展に関しても、社会情勢が変化していることの整理となります。この社会の変化に関しては、今後のまちづくりにおいて大きな変容をもたらすことが考えられることから、その動向に注視しながら取り組んでいくものであり、基本計画において検討していくこととします。
14	1		18	1	2	2	-	「安全・安心な社会の実現」の「2018 年（平成 30 年）の西日本豪雨災害をはじめとする・・・」について、「2018 年（平成 30 年）の大阪府北部地震や西日本豪雨災害」とされては如何ですか。	次のとおり改めます。 「2018 年（平成 30 年）の大阪府北部地震や西日本豪雨災害をはじめとする台風や豪雨による災害など」
15	1		29	2	1	-	-	1 行目～2 行目「これからのまちづくりは、主に行政主導による協働・・・これまでのパターンに加えて、新たな」を「パターンを拡張し」とする方が前頁 3 段落目の意図が伝わると思います。	これまで進めてきた参画と協働については、今後も継続するものであり、ここでは新たに住民一人ひとりが主役となる協働のあり方を新たに取り組む意味でも、原文のままとします。

16	1		29	2	1	-	-		6行目の「コーディネーターとしての役割を担っていく」の下線部は「バックアップ」ではないでしょうか。	今後のまちづくりを進める上で、住民が主体となること、行政が主体となること、住民どうしがつながって取り組むことなど様々な主体があって町全体で取り組みを進めていくこととなります。その中で、行政は単にバックアップをするという後ろ盾だけの役割ではなく、ともに創り上げていくため、原文のとおり、コーディネーターとしての役割を担っていくことが必要と考えていることから、修正は不要と考えます。
17	1		31	2	2	1	2		「2自然と共生し快適に暮らせる まちづくり」で、最後の段落「持続可能な社会に向けて、本町では、豊かな自然環境の保護はもとより・・・」と町民が最も魅力に感じている自然環境について、次世代に残すべき自然環境はどうあらねばならないかといった議論がなく、さらりと通り過ぎていることに強い疑問を感じます。 次ページの3段落目「町内の様々な観光資源をさらに磨きあげ」ることと自然環境の保護、保全が矛盾するようなことがないような計画が望まれます。	第六次総合計画においては、猪名川町の豊かな自然環境は次世代に残すべき資源であり、また資源を活かしたまちの活性化が必要だとしています。本項目では、そのことをまちづくりの方向性としており、具体的な施策等に関しては、基本計画で検討することとしています。ご意見に関しては、原文のとおりとします。
18	1		32	2	2	1	3		「3交流・活力をうみだす まちづくり」について、道路や宿泊環境といったインフラが、増大する交流人口に対応困難な現状のままで、交流人口の拡大を図るのは地元住民の住みにくさを招く恐れがあるので、地域経済活性化は広い視野の計画で取り組むようにしてほしいです。	人口減少が進むなか、移住・定住対策に取り組むことが必要となります。本町では、移住等の対策を進めるためには、猪名川町に関わる人が大切と考えており、その考え方を交流人口としております。 したがいまして、原文のとおりとします。

19	1		33	2	2	1	6	「6健やかにくらせる まちづくり」 医療環境は国の政策と密接に関わっており希望的観測ではなく県や国の政策との関りで猪名川町で実現可能な医療環境と住民の希望する医療環境、現状の不足していることを明らかにする必要があります。 若い世代は急性期の医療環境の充実を望むし、高齢者は町内に何時までも住み続けるためには「介護療養型医療施設」が望まれます。また後者は介護する家族の負担も少なくなるとしますので充実を図られることが望ましいです。	住民アンケート等からも本町における医療環境に対する不安は、あらゆる世代であると認識しています。そうした医療環境において、今後どのような対応ができるのか、また施設整備ではない対策は何か総合的に検討しながら整理していきます。 具体的な施策に関しては、基本計画で検討することとしています。
20	3		34	2	2	1	A	地域単位の団体としては、まちづくり協議会が重要な団体であります。猪名川町内の複数地域などを横断する課題などについては、他団体・組織が関係することもあるだろうと考えます。そのため、支える対象は、まちづくり協議会以外も含まれる表現にすべきと思います。	まちづくり協議会を一つのコミュニティの単位として、取り組んでおり、今後も同様となります。まちづくり協議会のご意見にあるように一定の制限の中で活動する団体でもあるため、第六次総合計画では、さらに猪名川町で活動したい人や団体を応援できる仕組みを目指しています。なお、施策に関しては基本計画で検討していきます。
21	3		-	-	-	-	-	効率的な行政運営の一つとして、積極的な中途採用職員や公募による特定目的のための(期間付き)職員採用をするなどの方法も検討すべきと考えます。※案の表現では、含まれていないと思います。	今後の行政運営においては、多岐にわたる行政サービスが求められるため、多種多様な能力を保有する人材の確保が重要となってきて、職員個々の能力の向上はもとより計画的な職員採用に努めるものです。